

第7回奈良市子ども・子育て会議事業計画策定部会の概要

開催日時	平成26年10月2日(木) 午後1時30分～午後3時30分
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室
議 題	1. 子ども・子育て支援事業計画素案の検討について 2. その他
出席者	出席委員10人(欠席委員2人)・事務局10人
開催形態	公開(傍聴者:なし)
担当課	子ども未来部子ども政策課

議事の内容

1. 子ども・子育て支援事業計画素案の検討について

事務局より、子ども・子育て支援事業計画の素案の検討について、資料1から3を基に説明を行った。

〔質疑・意見の要旨〕

岡本委員 ニーズ調査の結果を反映されている中で、家庭類型や在宅の子育て家庭がどのくらいあるのかといったものがこの表にはないのですが、子ども・子育て家庭を取り巻く環境としての家族の状況というのは、これだけでよいのでしょうか。

事務局 第2章の位置付けなのですが、現行の次世代計画を策定してから5年が経ち、ニーズ調査の結果等を通して、どのような変化があったのかという内容をまとめて、奈良市としてどういう施策をしていきたいと思います、という流れでつなげたいということで、このページを設定しておりまして、第4章で施策の体系があり、その中でもニーズ量を記載すべきものは第5章に流れていくということで考えております。

北岡委員 実際に計画が出来上がったときに、私たち母親はどのようにして計画とか条例を見ることができるのですか。たくさんの方が書いているものを配られると、少し読みにくいのではないかという気がしたのですが、ネットだと知りたい人しか見ませんし、どのようにされるのですか。

事務局 全体版の冊子だけではなく、概要版を作成します。概要版は単純なリーフレット形式ではなく、エッセンスを抜き出して、実際の事業もわかるような形で作成したいと考えております。周知方法ですが、市のホームページだけではなく、フェイスブックであったり、ツイッターに加えて、ラインも新しく開始いたしましたので、あらゆるツールを使って流していければと考えております。

岡本委員 地域子育て支援拠点事業を運営しておりますが、いつまでたっても「待ち」なので、乳幼児健診時の待ち時間のところで、私たちが出向いて行くというようなことも実施しています。奈良市では高い確率で拠点事業が知られていますが、本当に来てほしい人が来ていないこともあると思います。保健センターの職員が全て対応するのは大変だと思いますので、健診等の機会を上手く利用して情報提供する機会をタイアップして、妊婦の時から「生まれた後にはこのような行き場がありますよ」という情報提供を進めていただけると、保護者にとっては非常に安心だと思います。妊婦の時から切れ目なくつながっていたかっという人もたくさんいるので、妊婦の時に保健師さんが対応していたようなケース等と連携をとって、その後も継続的に拠点事業等につながっていくようなものもできたらよいと思います。

川尻委員 はぐくみセンターでは、同じフロアで健診と子育て支援センターをやっております。健診の待ち時間に子育て支援センターの職員が出向きまして、子育て相談に乗ったり、ちょっとした手遊びをやって、子育て支援センターに来られたわけではないのですが、健診を利用して子育て広場を知っていただくという取り組みを始めさせていただきました。

部会長 介護であればケアマネージャーなどがありますが、この子どもに関しては、ケアマネージャーのようなシステムはおそらくありません。市の役割として利用者支援が入ってくるかと思っておりますので、そこは上手くつながっていけるように、きっかけとして保健所の健診や妊婦健診の際に、直接利用しなくてもこのような窓口があるという情報発信だけでもしていただくということも考えていけたら良いのではないのでしょうか。

栗本委員 京都には、働きたいお母さんが相談に行って、仕事の相談だけではなく、保育園・幼稚園の状況のほか、あらゆる相談に乗ってもらえるシステムがあります。そのようなものが奈良市の中でもできたらよいなと思います。

岡本委員 利用者支援について、窓口での保育コンシェルジュ的なイメージがありますが、情報提供以外にもコーディネートしたり、ケアマネージャー的な全体を網羅した、その人に合った支援も必要です。身近な相談窓口と書く場合、利用者にとって、市役所の窓口まで来て相談する時は、かなり危機的な状況なことが多く、そこまで自分の状況を認識していないと思います。なんとなくしんどいとか、日々疲れているなみたいなこととか、子どもに当たっているなという段階では、なかなか市役所までは来ないので、やはり身近に出会っている人たちのところで、個別の相談等をするということ

が重要だということを非常に感じていますので、そのようなプランづくりができれば嬉しいと思います。

事務局 利用者支援ということであれば、奈良市が公立の幼稚園、保育園を統合しながら、認定こども園に移行していく中で、認定こども園の役割として、地域の子育て支援という役割をもってやっています。現在でも、未就園の親子登園ということで、専任の担当者を配置しておりまして、多い園では170組くらい登録がありますので、地域の中で情報提供できるような1つの窓口として、認定こども園があるのではないかと思います。

2. その他

事務局より、次回会議の日程について説明を行った。

資料

【資料1】奈良市子ども・子育て支援事業計画（素案イメージ）

【資料2】奈良市次世代育成支援行動計画（後期）進捗状況表

【資料3】事業計画素案イメージに対するご意見について